

# 2010 CSR Report

Corporate Social Responsibility

## Value Integrator

未来につなげる新たな価値を創造します。



三菱UFJリースはCSRレポートの印刷工程(原材料の調達~印刷工程)において発生するCO<sub>2</sub>を、カーボンオフセットしています。  
プロジェクト名: インド 風力発電プロジェクト  
オフセット数量: 2tCO<sub>2</sub>  
詳しくは当社ホームページをご覧ください。



管理森林から伐採した木材を使用して自然森林を守っています。



印刷時に有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



インキ中の石油系溶剤をすべて排除し、植物油(大豆油)に切り換えた環境配慮型水なしVOCフリーインキで印刷しました。\*VOC(揮発性有機化合物: Volatile Organic Compounds)

色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人たちが見やすいような表示を配慮しました。

 **三菱UFJリース株式会社**  
MUFG

東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング  
TEL ▶ 03-6865-3002  
HP ▶ <http://www.lf.mufig.jp/>

 **三菱UFJリース**  
MUFG

## コーポレートメッセージ

当社のコーポレートメッセージ「Value Integrator」には、「複数の有形・無形資産=現在価値 (Value) を、リース&ファイナンスという手法で統合 (Integrate) し、新たな価値を創造していく」という思いを込めています。

# Value Integrator

三菱UFJリースは、ステークホルダーのみなさまと共に歩み、豊かな社会づくりに貢献します。

### 編集方針

本レポートは、三菱UFJリース及び三菱UFJリースグループが取り組んでいるCSR活動について、ステークホルダーのみなさまへご報告するために毎年発行しているものです。

本年度は、特集として「シンフォニー（建物リース）」「地域医療への貢献」「環境ビジネスの拡大」の3つのテーマを取り上げました。当社グループの事業活動を通じたCSRの実践について、わかりやすく報告することを目指しています。また、新しい事業へ積極的にチャレンジし、豊かな社会づくりを実践していく人材を育成するために2009年度からスタートした「メンター制度」「クレドマイスター」についても記載しています。

当社では、本レポートを通じて、ステークホルダーのみなさまとの対話を促進し、みなさまの声を今後のCSR活動及びレポート作成に活かしていきたいと考えています。ぜひ、忌憚ないご意見・ご感想をお寄せいただきますようお願い申し上げます。

### 発行月

2010年7月

### 対象期間

2009年度（2009年4月1日～2010年3月31日）  
（一部、対象期間外の活動を含んでいます）

### 対象範囲

三菱UFJリース株式会社、及びグループ会社の取り組みを対象としています。

### お問い合わせ先

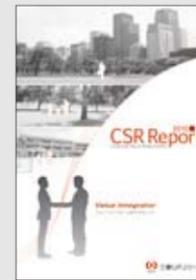
三菱UFJリース株式会社 広報IR部  
東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング  
TEL ▶ 03-6865-3002  
HP ▶ <http://www.lf.mufg.jp/>

### 当社に関する情報について



当社の商品・サービス及び当社に関する各種情報につきましては、ホームページ上に掲載しておりますので、下記URLもご参照ください。  
HP ▶ <http://www.lf.mufg.jp/>

### 表紙について



さまざまな価値を統合し、未来につながる新たな価値を創造していく三菱UFJリースの姿を表しています。

### INDEX

コーポレートメッセージ	1
トップコミットメント	3
三菱UFJリースについて	5
CSR経営の考え方	7
三菱UFJリースのCSR	9
<b>特集</b> シンフォニー（建物リース）	13
お客さまとともに	15
株主・投資家のみなさまとともに	16
社員とともに	17
<b>特集</b> 地域医療への貢献	21
地域社会とともに	23
<b>特集</b> 環境ビジネスの拡大	25
環境のために	27
グループ会社の環境ビジネス	30

## 豊かな社会の実現に向けて

温室効果ガス削減などの社会的課題が世界規模で広がりを見せる中、持続可能な社会を実現するため企業に求められる役割も多様化しています。

三菱UFJリースではお客さま、株主・投資家のみなさま、そして地域社会からの信頼に応え、豊かな社会の実現に貢献することを経営理念として掲げております。総合ファイナンスカンパニーとして、事業活動を通じた社会的責任を果たすことで、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えております。

## みなさまの期待と信頼に応えるために

三菱UFJリースは、グループの総合力でお客さまの多様な課題にベストソリューションをご提供するため、商品サービスの継続的な拡充に取り組んでいます。

環境分野では、省エネ化をサポートするESCO事業や、CO2削減に寄与する排出権関連ビジネスなど、環境貢献型商品・サービスを推進してきました。また、モノ（＝物件）を扱う事業という特性を活かして、リース・レンタル物件の3R（リデュース、リユース、リサイクル）や中古物件関連ビジネスを推進し、資源の有効活用と廃棄量の低減に努めるなど、早くから循環型社会の

構築に貢献してきました。2009年には世界銀行グループの国際金融公社（IFC）とアジアにおける省エネ・環境関連ファイナンスの協働促進についての覚書を締結するなど、当社の環境に関する取り組みはグローバルに展開しています。

そのほか、教育施設や公共施設といったインフラ整備をサポートするPFI事業や、地域医療を支える商品・サービスのご提供など、地域社会における社会的責任を果たすべく、当社の特徴を活かしたさまざまな取り組みを推進しています。

## 社員一人ひとりの実践

事業活動を通じてCSR活動を行う上で、活動の主体となる社員の意識向上は欠かせません。三菱UFJリースでは、CSR活動を実践していくためには、社員一人ひとりが社会的課題を自覚し、その課題に対し真摯に向き合うことが必要不可欠であると考え、各種研修を始めとする教育体制を強化しています。また、ワークライフバランスの観点から、より働きやすい環境づくりや、社員の意欲向上に繋がるさまざまな取り組みを推進しています。こうした取り組みを着実に進めることで、将来の担い手を育成し、当社のCSR活動の原動力にしたいと考えています。

## 信頼関係を確立するために

ステークホルダーのみなさまとの信頼関係を維持し、社会と共に持続的に発展していくためには、透明で健全な経営が基本であると考えています。三菱UFJリースでは、コーポレートガバナンス体制の継続的な強化を図るとともに、内部統制やリスク管理、コンプライアンス体制の充実に積極的に取り組むなど、健全な経営の実践に努めています。

また、情報セキュリティ、コンプライアンス、内部監査などについてはグループ全体で強化していくため、グループ各社の担当者を集めた情報連絡会を定期的に開催し、それぞれの抱える課題や改善策についての意見交換や議論を交わすことで、組織知の深化を進めています。

三菱UFJリースでは、ステークホルダーのみなさまとの対話を一層充実させ、企業価値の持続的向上を目指していきたいと考えております。本レポートをご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想を賜りますよう、お願い申し上げます。

2010年7月



代表取締役社長

付田隆一

事業活動を通じ、豊かな社会の実現に 貢献いたします。

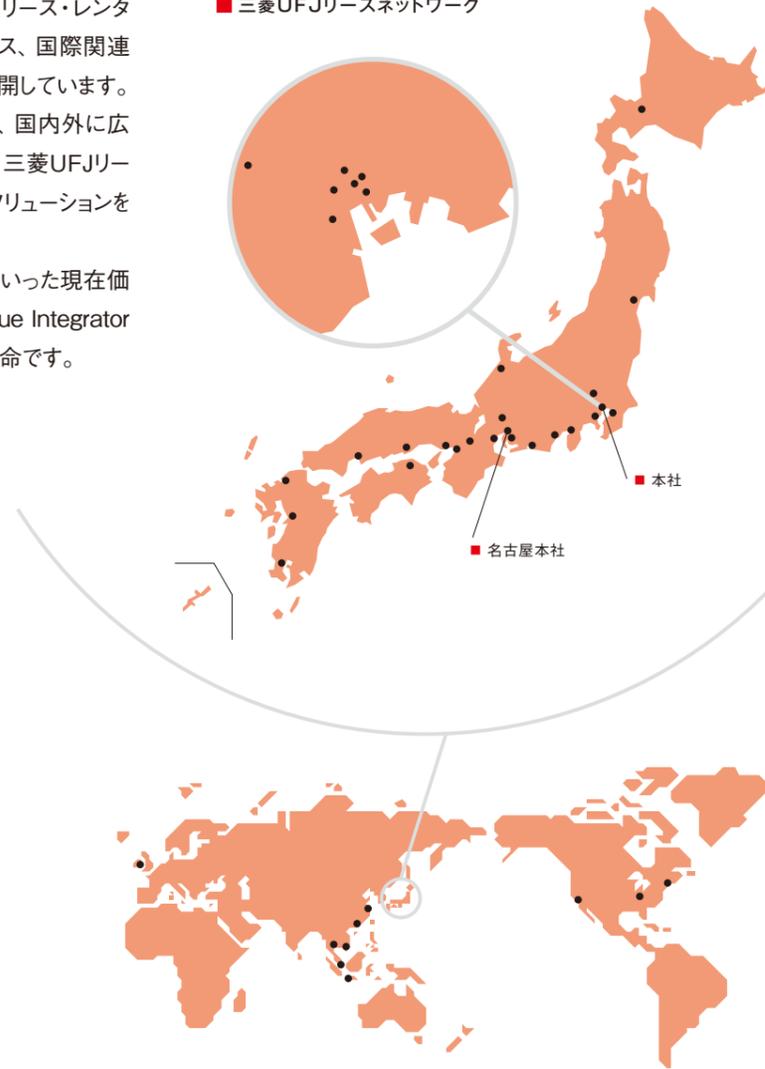
# 三菱UFJリースについて

グループの総合力を活かして、お客さまに最適なソリューションをお届けします。

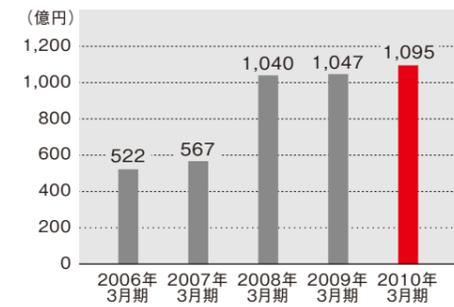
三菱UFJリースは、総合ファイナンスカンパニーとして、リース・レンタル事業に加え、不動産関連サービス、環境関連サービス、国際関連サービス、中古機器販売など幅広い商品・サービスを展開しています。ますます多様化・高度化するお客さまのニーズに対して、国内外に広がるグループネットワークや、長年培われたノウハウなど、三菱UFJリースグループが持つ総合力を最大限に発揮して、最適なソリューションをお届けしていきます。

リース&ファイナンスの手法を駆使して、モノやサービスといった現在価値を相互に結びつけ、未来価値に高めていくことが、Value Integratorをコーポレートメッセージとして掲げる三菱UFJリースの使命です。

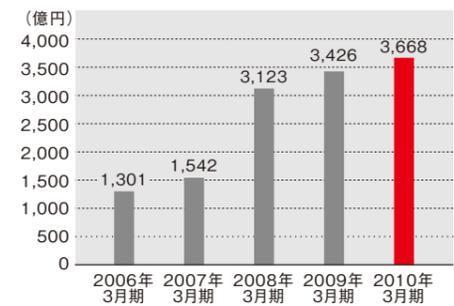
■三菱UFJリースネットワーク



■売上総利益



■純資産



## 会社概要 (2010年3月31日現在)

- **商号**  
三菱UFJリース株式会社 (Mitsubishi UFJ Lease & Finance Company Limited)
- **本社**  
東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
- **設立**  
1971年4月12日
- **事業内容**  
各種物件のリース  
各種物件の割賦販売  
各種ファイナンス業務 / 国際業務 他

- **資本金**  
33,196,047,500円
- **従業員数**  
2,219名 (連結)  
1,195名 (単体)
- **株式**  
上場証券取引所  
東京証券取引所 市場第一部  
名古屋証券取引所 市場第一部
- **決算期**  
3月31日

## 主な事業と商品サービス内容

三菱UFJリースの事業領域は、リースの枠を超えた進化を続けています。



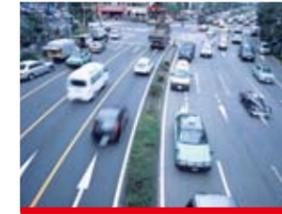
### ファイナンスリース

効率的な資金運用、事務管理のアウトソーシングによる業務効率の向上をサポートし、物件導入における新たな価値をご提供します。



### オペレーティングリース

リース期間満了後の物件価値をあらかじめリース物件の元本から控除し、設備の導入コスト軽減を図ります。また、「生産ラインの合理化をはかりたい」、「受注に応じて機動的に設備を導入したい」など、お客さまのさまざまなニーズにお応えします。



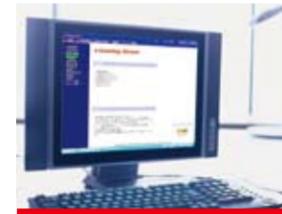
### オートリース・オートファイナンス

現状分析に基づいたコンサルティングにより、車両管理業務の合理化を図り、管理負担の軽減、コストコントロール、リスクの軽減など、最適な車両マネジメント体制の構築をサポートします。



### レンタル

IT機器、工作機器、計測器のレンタルなど、三菱UFJリースグループの各種在庫や専門サービスにより、多種多様なレンタルニーズに対応します。



### 資産管理サービス

リースの見積から契約・変更・満了手続きや情報照会など、一連の手続きをインターネット上で一元管理できる「e-Leasing Direct」をご提供します。各種フローをインターネット上で履歴化することで、内部統制対策としてもご利用いただけます。



### 国際関連サービス

海外での事業展開に必要な設備投資のファイナンスサポートや、貿易手続きのサポートなどを行っています。各国の法律や税制に基づき、最適なソリューションをご提案します。



### 環境関連サービス

工場・ビルなどの省エネルギー化をご提案するESCO (Energy Service Company) 事業をはじめ、排出権関連サービス、環境に優しいグリーン電力を利用したグリーンリースなど、各種環境ソリューションをご提供します。



### 医療関連サービス

最先端医療機器のリースから、診療報酬ファクタリング、新規開業支援、中古医療機器の売買に至るまで、病・医院運営をトータルにサポートします。



### 不動産関連サービス

事業用借地権を活用した「シンフォニー (建物リース)」や、商業、オフィス、物流用不動産を対象とした不動産関連ファイナンスなど、さまざまなサービスをご提供します。



### PFI事業

社会資本整備に民間の資金・ノウハウを活用するPFI (Private Finance Initiative) 事業。公共施設の整備運営に対するファイナンス提供から、プロジェクト全体のコーディネートまでサポートします。

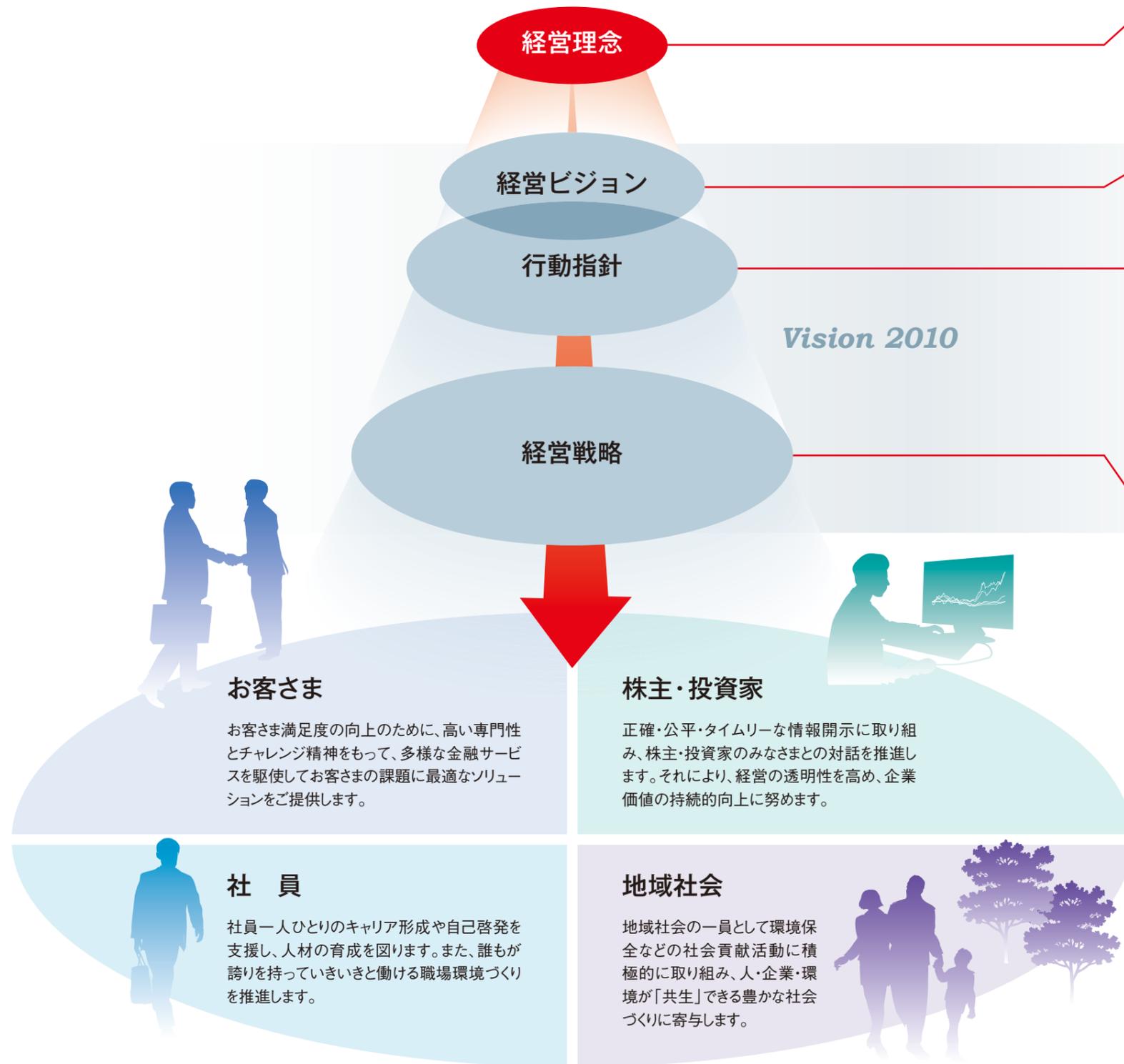


### 中古機器売買

専門のグループ会社を通じて、半導体製造設備や工作機械、医療機器、情報関連機器などの売買を取り扱っています。機動的な設備導入をご希望とするお客さまをサポートします。また、リース満了物件の売却も行っています。

# CSR経営の考え方

環境・社会・経済における社会的責任に取り組み  
すべてのステークホルダーから信頼され続ける企業に。



**Value Integrator**

## 経営理念

お客様、株主様、社員からの信頼に応え、豊かな社会の実現に貢献します。

- お客様にベストソリューションを提供し、企業価値の持続的向上に努めます。
- 法令を遵守し、環境に配慮した企業活動を通じ、地域・社会の発展に貢献します。
- 社員一人ひとりが意欲と誇りを持って活躍できる環境を提供します。

## 経営ビジョン

金融と商流を融合した事業金融分野で圧倒的なリーダーを目指す。

高度で洗練された「事業金融機能」の提供を通じて、「モノ」、「サービス」、「情報」、「資金」といった「財」を相互に結び付けるコーディネーターとなり、お客様にとって真に価値あるサービスを提供し、すべてのステークホルダーに貢献する企業であることが、三菱UFJリースの存在価値です。

## 行動指針

- 三菱UFJリースならではのリスクテイク  
金融機能と商社機能を持ち併せた「三菱UFJリース」ならではのリスクテイク
- 課題解決に向けて果敢にチャレンジ  
お客様の課題への嗅覚を磨き、失敗を恐れず解決に向け果敢にチャレンジ
- 戦略を伴ったスピーディーな行動  
様々な戦略に基づくスピーディーな行動
- ソリューションを実現する専門性  
お客様の課題を解決する真に価値あるソリューションを実現する専門性の向上
- 社会的責任への真摯な取り組み  
すべてのステークホルダーからの信頼確立に向けた真摯な取り組み

## 経営戦略

経営戦略遂行にあたってのキーワード

- **スピード**  
他の追随を許さないために、速やかに戦略に着手し、全速力で戦略を遂行する。
- **突破力**  
環境変化をチャンスと捉え、戦略に自信を持って、怯むことなく戦略を遂行する。
- **変革力**  
自己変革に恐れずに取り組む。
- **総合力**  
三菱UFJリースグループが持つ全ての資源、ノウハウ、機能を結集して戦略を遂行する。

経営戦略の全体構成

- **成長戦略**
  - I バリューチェーン上の提供機能拡大と多様なリスクテイクによる三菱UFJリースならではのサービス拡大
  - II グローバルベースでの事業展開の加速
  - III お客様接点の強化
  - IV 外部成長戦略の推進
- **経営基盤強化戦略**
  - I 経営管理の高度化
  - II 営業力の強化、手法の高度化
  - III 効率性の追求
  - IV IT戦略の強化
  - V 新たな企業風土の醸成
  - VI 人材マネジメントの改革
  - VII 信頼の確立

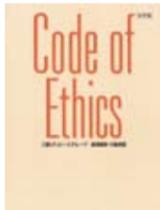


## グループマネジメントの推進

三菱UFJリースグループでは、お客さまや社会からの信用・信頼を構築するためにグループマネジメントの強化に努め、グループ全体で価値観や倫理観の共有化を図っています。

基本的な倫理・行動の指針をまとめた「倫理綱領・行動規範」を全社員に配布しているほか、会計基準、情報セキュリティ、内部監査など共通するテーマについては、グループ全体での勉強会や情報連絡会を開催。ノウハウや情報の共有はもとより、グループ各社が抱える課題に対して大局的な視点から議論をしています。こうしたグループ内コミュニケーションの活性化によって、組織知の向上や結束力の強化につなげています。

コンプライアンスに関しては、グループ全体で同レベルの体制確立に向けて整備を進めています。2009年度は各グループ会社の業務や状況に合わせて、「コンプライアンス・リスクマップ」を作成。その策定にあたっては、各グループ会社と法務コンプライアンス部との間で綿密な打ち合わせを行い内容の充実を図っています。



倫理綱領・行動規範

さらに、半年ごとにアンケートや現地訪問を行いコンプライアンス推進施策の実施状況をモニタリングし、その結果をもとに改善を図っていくことで、より実態に即したリスク把握と対応策の立案に活かしています。

また、法務体制の構築についても、各グループ会社に対してさまざまなサポートを提供しています。



内部監査部門連絡会議

### 倫理綱領

三菱UFJリースグループの倫理綱領は、グループとして共有すべき基本的な価値観や倫理観を定め、グループの役員・社員等の基本的な指針とするものです。

#### 1. 信頼の確立

グループの社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、情報管理を徹底するとともに、企業情報の適時適切な開示を含め、健全かつ適切な業務運営を通じて、社会からの揺るぎない信頼の確立を図ります。

#### 2. お客さま本位の徹底

常にお客さま本位で考え、十分なコミュニケーションを通じて、お客さまのニーズに最も適合する商品やサービスを提供し、お客さまの満足と支持をいただけるよう努めます。

#### 3. 法令等の厳格な遵守

あらゆる法令やルールを厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、公正かつ誠実な企業活動を遂行するとともに、グローバルに展開する企業グループとして国際的に通用する基準も尊重します。

#### 4. 人権および環境の尊重

お互いの人格や個性を尊重するとともに、人類共通の資産である地球環境の保護を重視して、社会との調和を図ります。

#### 5. 反社会的勢力との対決

市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、毅然とした態度を貫きます。

## 反社会的勢力に対する基本方針の制定

2007年に政府が「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針」を策定するなど、反社会的勢力への対応の重要性が増しています。三菱UFJリースグループでは、従来より反社会的勢力との関係の遮断・排除を徹底してきましたが、2009年にこれを明文化して「反社会的勢力に対する基本方針」として定め、ホームページでも公開しました。

三菱UFJリースグループは、従業員一同この基本方針を遵守することにより業務の適切性と安全性の確保に努めるとともに、今後も反社会的勢力との関係遮断のための取り組みを積極的に推進していきます。



HP ▶ <http://www.lf.mufg.jp/corporate/idea/index.html>

## 危機管理体制

三菱UFJリースでは、事故や障害が発生した際に、経営に与える影響を最小限にとどめることができるよう、危機管理方針を明確にしたうえで、危機管理規程やマニュアルを整備しています。事態の類型別に主管部店や報告ルートを決め、また、危機の状況により警戒事態・危機事態・非常事態の3つのステージごとに対応を定めて、個々の危機に対して即応する体制をとっています。

なお、2009年度には、新型インフルエンザなどを想定した感染症対策のBCP（事業継続計画）を策定し、危機管理体制の一層の充実を図っています。

### 危機管理方針

三菱UFJリースグループは、危機発生時においても社会からの信頼を守ることが最優先し、以下の行動方針を基に、意思決定、行動判断を行うこととする。

#### ■ 企業として求められる責任を果たす

三菱UFJリースグループの社会的責任と公共的使命の重みを十分認識し、関係者の利害に関わる情報を積極的に開示するなど、企業として求められる責任を果たす。

#### ■ コンプライアンスを徹底する

法令を厳格に遵守し、社会規範にもとることのない、公正かつ誠実な企業姿勢を示す。

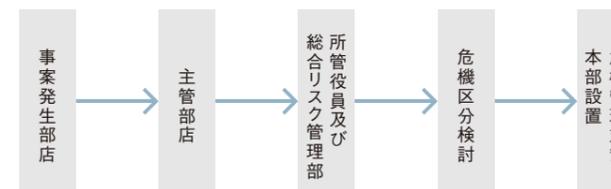
#### ■ お客さま、株主さま、社員との継続的なコミュニケーションに努める

危機発生時においても、お客さま、株主さま、社員との継続的なコミュニケーションに努め、相互の信頼関係を維持する。

### 危機区分と対応態勢

危機区分	危機の状況	対応態勢
警戒事態	対応の遅れや誤りにより「危機事態」に発展する可能性のある状況	主管部店対応
危機事態	業務の著しい遅延や中断、及び、企業の存続が危ぶまれる信用失墜の危険性が高まった状況	危機管理対策本部 (本部長: 主管部店所管役員)
非常事態	「危機事態」の中でも経営・業務への影響が特に大きく、社長の意思決定が必要な状況	危機管理対策本部 (本部長: 原則、社長)

### 危機対応のフロー



## 情報セキュリティ管理

三菱UFJリースでは、お客さまの個人情報ははじめとするさまざまな情報の保護の重要性を認識し、情報セキュリティ管理体制の強化に取り組んでいます。

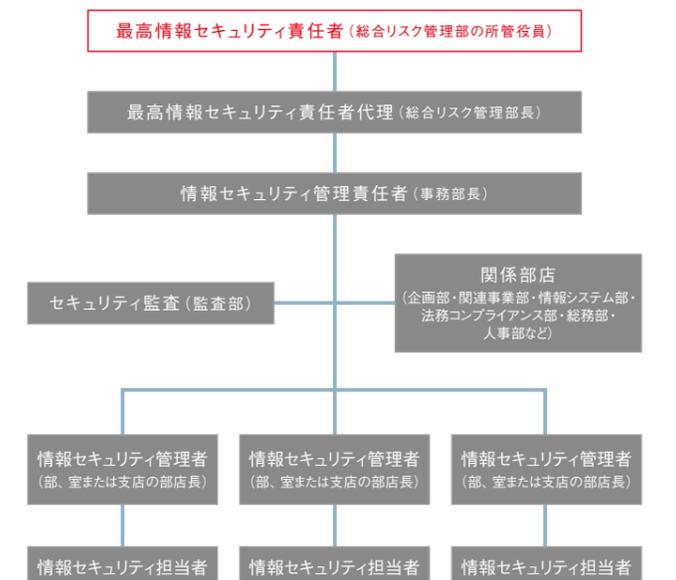
情報セキュリティ管理規程及びマニュアルにおいて、グループの共通理念である「情報セキュリティ方針」を定めると共に、情報資産の重要度に応じた分類と、利用、管理、廃棄のルールなどを定めています。

また、派遣社員を含む全社員に年4回情報セキュリティチェックを実施するなど社員教育を徹底すると共に、外部専門家の協力を得て電子メールの誤送信防止システム導入や、印刷物・記録媒体の管理強化、セキュリティエリアに対する入退室の管理強化、パソコンのウイルス感染防止強化策などの各施策を講じています。

さらに、こうした情報セキュリティ管理が適切に行われているかをチェックするためにセキュリティ監査を実施しており、必要に応じて社外の専門家に助言を得られる体制を整備しています。

また、個人情報については、法令に基づいた適切な取り扱いを徹底するため、「個人情報保護規則」を制定し、情報の入手・管理方法について規定しているほか、社員教育用の「個人情報マニュアル」も整備しています。

### 情報セキュリティ管理の組織





事例紹介 アクロスプラザ長岡

新潟県・長岡駅東の再開発エリアに大型複合商業施設オープン。

2006年、合併によって誕生した新しい長岡市は人口約30万人。合併翌年には県の事務権限を一部移譲される特例市に指定されました。

長岡市の玄関口、長岡駅（JR信越本線・上越新幹線）の約1km東側のエリアでは、2つの国道に接し、駅から徒歩圏内という恵まれた立地を活用するため、「長岡駅東土地画整理事業」が進められてきました。その商業エリアに2010年3月にオープンしたのが「アクロスプラザ長岡」です。

敷地面積は51,184㎡、事業規模は約26億円。スーパーマーケット、書店、ドラッグストア、衣料品、歯科クリニック、飲食店など32店舗が入る大型複合商業施設で、三菱UFJリースは、デイベロッパーの大和情報サービス様、建築・設計を担当された大和ハウス工業様と協力して取り組みました。

地域の利便性向上を目指して作られた「アクロスプラザ長岡」は、オープン以降、多くのお客さまが来場し、たいへんな賑わいとなっています。



アクロスプラザ長岡の全体図



壁面緑化パネル ハイブリッド照明

特集

シンフォニー（建物リース）



不動産プロジェクト部長  
瓜阪 道生

土地と建物をまるごとリース。  
企画・設計・管理までサポートします。

三菱UFJリースの「シンフォニー」は、事業用定期借地権を利用して土地所有者から土地を借り受け、そこにお客さまが希望する建物を建て、まるごとリースするサービスで、法改正により事業用定期借地権が認められた1992年から、本サービスを積極的に推進してきました。お客さまは、土地の造成、建設・設計、敷金や土地の賃料などほとんどの費用をリース料として月々分割して支払うことになるので、初期投資の負担を抑えることができます。

三菱UFJリースの「シンフォニー」は、単なるファイナンスの提供にとどまらず、企画段階からリース期間満了までトータルにサポートできるのが特徴です。土地所有者や行政との交渉から、施設の設計・維持管理を行う会社の選定やアドバイスまで、きめ細かいサービスをご提供します。

これまでに、多店舗展開を行う商業施設やショールーム、複合商業施設、物流・配送センターなどの実績があり、多くのお客さまからご好評をいただいております。

VOICE

お客さまの声



大和情報サービス株式会社  
関東営業所  
所長  
高橋 将寛 様

「アクロスプラザ長岡」は、スーパーマーケットや衣料品などの日用品と、飲食店舗を充実させることで、地域の方々の生活利便性向上と、交流の場となる施設作りをコンセプトとしています。特に留意したのは環境への配慮です。壁面緑化パネルなどの植栽計画、ハイブリッド照明やリサイクル素材のベンチや車止めの採用、電気自動車用充電スタンドの整備など、環境と調和した施設となるようさまざまな工夫を行っています。入居いただいているテナントは、店舗ごとに個性が感じられ、お越しになられるお客さまにも複数の店舗を楽しんでご利用いただいています。

VOICE

担当者の声



不動産プロジェクト部  
チームリーダー  
安藤 和之(右)  
中谷 誠(左)

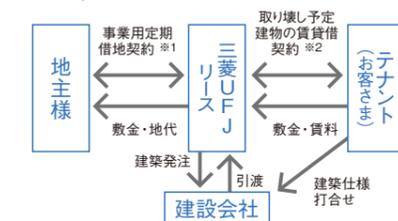
わたしたちは、地域の活性化に貢献したいという強い思いで、大和情報サービス様、大和ハウス工業様と協力してこのプロジェクトに取り組みました。今回のプロジェクトにあたっては、市の歴史や町の成り立ちなどについて調べたほか、計画段階から現地周辺を自分の足で歩いて、この地域に合った施設はどのようなものかを徹底的に調査・検討しました。プロジェクトを進めるにあたっては、関係するすべての方と作り上げていく楽しさを共有すること、感謝の念を忘れないことが重要だと感じています。今回の経験を活かし、これからも地域の方々に役立つ施設の開発を積極的に行っていきたいと考えています。

三菱UFJリースのシンフォニー

■ メリット

- 初期投資の軽減
- キャッシュフロー負担の軽減
- コスト把握が容易
- 複数の地主様との交渉が容易
- 建物の所有に伴う管理事務が簡素化

■ スキーム



※1.「事業用定期借地権」とは  
借地借家法に規定された新しい借地形態で「専ら事業用の建物（但し、居住の用に供するものを除く）の所有を目的とし、10年以上50年未満を存続期間とする借地権」です。

※2.「取り壊し予定建物の賃貸借」とは  
借地借家法に規定された新しい借家形態で「法令または契約により一定期間経過した後建物を取り壊すべきことが明らかな場合において、建物の取り壊しの際には賃貸借契約が終了することを特約する賃貸借」です。

# 多くの交流を通じてニーズを理解し お客さま満足を追求。



# 積極的なコミュニケーションを図り 適切な情報開示を推進。

## 基本的な考え方

三菱UFJリースでは、お客さま満足度の向上を図るために、商品・サービスの充実にあります。また、お客さまとの対話を増やすことで、お客さまの潜在的な課題やニーズを理解し、それにお応えする最適なソリューションを提供したいと考えています。

## お客さまとの交流

三菱UFJリースは、お客さまのさまざまなニーズにお応えするため、継続的に商品・サービスの充実を図っていきたく考えています。そのために、お客さまの生の声を聞くことのできる機会、そして、当社のサービスを知っていただくことのできる機会を増やし、お客さまとのよりよいコミュニケーションを目指しています。

### ■ 商談会

#### 「Business Link商賣繁盛」

来場者 約6,800名

2010年2月にINTEX OSAKAにて三菱UFJファイナンスグループ主催の「第7回Business Link商賣繁盛」が開催され、当社は環境、医療、総合の3つのブースを出展しました。関西地区を中心に約2,300社の企業が参加、約6,800名が来場し、さまざまな業種のお客さまの商談が行われました。



Business Link商賣繁盛

### ■ 産業と暮らしの

#### グランドフェア2009

来場者 約20,000名

2009年7月の2日間にわたり幕張メッセで開催された「産業と暮らしのグランドフェア」に、工作機械のリース相談窓口としてブースを出展しました。本フェアには495社が出展、約2万名が会場を訪れました。



産業と暮らしのグランドフェア2009

## 海外事業進出サポート

三菱UFJリースでは、グローバルネットワークを拡充し、お客さまの海外事業進出をサポートしています。2010年1月にはアメリカの西海岸に営業拠点を開設しました。また、中国、タイ、ベトナムでリース・ファイナンス事業を展開するアジ

ア大手金融グループのフィナンシャル・ワンとアジア地域でのビジネスを協働で推進していくことを目的とした業務提携を締結しました。こうした動きを今後もさらに加速させ、お客さまのグローバルビジネスをきめ細かくサポートしていきます。

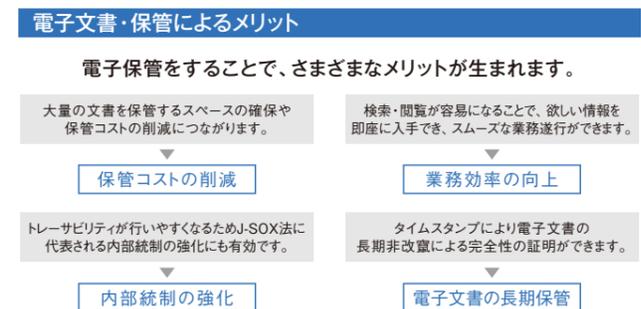
## 「イノベーション支援センター」の設置

環境・省エネ分野を中心とした新しい技術やサービスなどのイノベーション活動に取り組むお客さまを幅広くサポートしていくため、2009年10月に「イノベーション支援センター」を設置しました。省エネに関する新しいサービスや技術を持ち、それを提供していきたいと考えている企業のみならず、お客さまの潜在的なニーズにお応えできるよう努めています。また、省エネサービスを必要としているお客さまに対しては、ファイナンス会社という中立的な立場から、ニーズや課題の解決方法についてお客さまとともに考え、最適なソリューションをご提供しています。

このほか、イノベーションに関する最新の動向について、行政やシンクタンクなどから情報を収集し、お客さまへもご提供しています。三菱UFJリースは、イノベーションに関するさまざまな課題・問題に対して、お客さまの立場に立ち、きめ細かにサポートしていきます。

## e-Leasing Direct (イーリーシングダイレクト)

e-Leasing Directは、インターネットを用いてリースの見積りから、契約、満了処理に至るまでさまざまな手続きが行えるサービスです。手続きの電子化によって書類保管コストが削減できるとともに、「いつ」「だれが」「なにを」したかが記録されるので、内部統制の強化にも有効です。また、リース資産管理のデータベース化により管理業務の軽減化・効率化にもつながり、特に多くの物件を管理しているお客さまにご利用いただいています。会計制度の変更やお客さまのご要望に応えるため随時バージョンアップを図り、常にサービスの向上に努めています。



## 基本的な考え方

三菱UFJリースでは、株主・投資家のみなさまへの公平かつ迅速な情報開示を心がけるとともに、対話の機会を増やすよう努めています。企業価値の向上を図り、継続的かつ安定的な株主還元を行うことで、株主・投資家のみなさまの期待と信頼に応えていきたいと考えています。

## IR活動の目的と基本方針

三菱UFJリースは、IRポリシーを定め「経営方針、事業戦略、事業活動、財務状況などに関する情報を、正確、迅速、公平、積極的かつ継続的に提供することで、株主、投資家のみなさまから信頼と適切な評価を得ること」を基本方針として、さまざまな取り組みを実施しています。公平で質の高い情報開示を通じて、株主や投資家のみなさまに企業価値を適正に評価していただけるよう努めています。

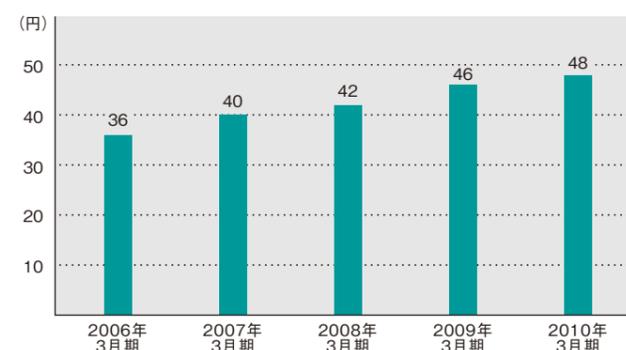


IR情報  
<http://www.lf.mufg.jp/investors/>

## 株主還元と企業価値の向上

三菱UFJリースは、企業価値の持続的向上に努め、株主還元の充実によって株主や投資家のみなさまのご期待に応えていきたいと考えています。2010年3月期の配当は前期比2円増配の48円で、11期連続の増配となりました。

### 一株当たりの配当金の推移



## 名古屋証券取引所からの表彰

投資単位の引き下げ、継続的かつ安定的な増配、株主数の大幅な増加などの当社の取り組みが証券取引市場の裾野拡大に貢献したとして評価され、2010年2月に名古屋証券取引所より、感謝状をいただきました。今後も積極的なIR活動を行い、投資家のみなさまとのコミュニケーションを活性化していきます。



表彰式の様子

## 株主・投資家との対話

三菱UFJリースは、株主・投資家のみなさまとの双方向のコミュニケーションを重視し、当社の事業に対する理解を深めていただけるよう努めています。決算概要資料やホームページなど多様な情報開示を通じて、事業活動にかかわる情報を適切に提供していきます。

### ■ 機関投資家とのコミュニケーション

機関投資家に向けて年2回開催している決算説明会では、代表取締役が決算の概要や今後の経営戦略などについて説明し、活発な質疑応答が行われています。また、国内外機関投資家に対して、個別取材やミーティングを実施しているほか、定期的に米国、ヨーロッパ、アジアなどを訪問し、海外投資家向けに説明会や個別面談を行っています。

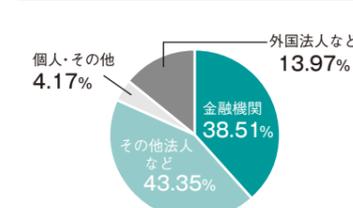
### ■ 個人投資家とのコミュニケーション

証券取引所や証券会社が個人投資家向けに開催するさまざまなIRイベントにも積極的に参加しています。2009年度は名古屋・大阪・高松で、個人投資家のみなさまに当社の事業活動について説明しました。また、株主向けコミュニケーションツールとして、年2回報告書を発行しています。



個人投資家向けIRセミナー

### 所有者別株式数比率



# ワーク・ライフ・バランスのとれた働きやすい環境を整備。



# さまざまな研修制度を取り入れ社員の成長をサポート。

## 基本的な考え方

三菱UFJリースでは、ステークホルダーの期待と信頼に応え持続的な成長を目指すうえで、社員一人ひとりが意欲と誇りを持って活躍できる職場であることが重要であると考えています。そのため、ワーク・ライフ・バランスやヘルスケアサポートの充実、キャリア形成を促進する研修制度の拡充、社内コミュニケーションの活性化など、いきいきと働ける職場づくりを進めています。

## 就業支援

### ■ 出産・育児支援制度

育児休業利用者 約28名

社員がライフステージに合わせて働けるように、三菱UFJリースでは出産・育児支援制度の充実を図っています。2009年度は、産前特別休業利用者は19名、育児休業利用者は28名で、男性社員の育児休業利用もありました。

また、こうした制度を安心して利用できるように、社員の意識啓発と環境整備に努め、子育てと仕事が両立できる職場づくりを推進しています。

### ■ 産休・育休取得者数について

	産 休	育児休暇
2007年度	13名	16名
2008年度	11名	22名
2009年度	19名	28名(男性1名)

## ワーク・ライフ・バランス

三菱UFJリースで働く一人ひとりの社員が仕事と生活を調和させて、いきいきと働くことができる風土づくりに向けて、ワーク・ライフ・バランスを促進する各種取り組みを推進しています。

2009年度より新しい試みとして開始した「女性リーダー養成塾」では、社外の女性キャリアを招いた講演などを実施。改めて自らのキャリアイメージを描き、自分自身の仕事やライフイベントにつ



女性リーダー養成塾

### VOICE

女性リーダー養成塾参加者の声



商品開発室  
部長代理  
大西 宏子

研修には、自分のウィークポイントを克服するヒントを得たいという期待を持って臨みました。講義はわかりやすく、講師の方も積極的にアドバイスをくださいました。また、三菱UFJリースで活躍している先輩の体験談や、外部で役員を務めている方の講演も大変参考になりました。ロールプレイや講義を通じてリーダーの役割を学べたほか、多角的な分析を通じて普段の自分の行動を振り返ることで今後何をすべきかが明確になりました。また、同じ女性社員の考えていることがよくわかったこともとても有意義でした。

## ヘルスケアサポート体制

社員一人ひとりの心と体の健康維持を支援するため、三菱UFJリースではきめ細かな「ヘルスケアサポート体制」を整備しています。各本店にはヘルスケア担当者を配置。専門医療機関とも連携し、24時間健康相談、無料カウンセリング、医療機関紹介、ストレスチェック、メンタルヘルスチェックなどを実施して、心身両面での健康管理をサポートしています。

2009年度には、グループ会社の担当者も交えた意見交換会を実施し、ヘルスケアの重要性について確認しました。

## オープンオフィス

参加家族 約100名

2009年8月に、社員の家族を職場に招待するオープンオフィスを本社で開催し、100名を超える家族が訪れました。新企画として、役員との名刺交換を行う「お仕事体験」や、本社の各所をめぐる「スタンプラリー」などを実施しました。参加した家族からは「会社で働いている姿がよくわかった」と好評でした。



オープンオフィス

## 新入社員基礎研修

約1年をかけて、ビジネスマナー、会計・法務・財務分析、業務に関する基礎知識、商品知識などを学びます。



新入社員研修

## MULビジネススクール

若手層が対象の研修で、ビジネスリーダーに必要なマーケティング、経営・事業戦略、ファイナンス、事業採算分析などを、基礎から応用まで体系的かつ実践的に学びます。

## メンター制度

2009年より新入社員を2年間にわたりサポートする「メンター制度」を導入しました。新入社員とメンター（指導者）が長期的にコミュニケーションをとることで信頼関係を築き、意識面を含めて継続的にフォローすることを目的としています。また、新入社員の身近な相談相手として、2年目の社員も加わり、新入社員をサポートする中で自身の成長も図ります。こうした3者間のコミュニケーションにより多面的に新人育成を行いながら、同時に、全社的なコミュニケーションの活性化と「学び・教え合う」風土づくりを目指します。

## トレーニー制度

国内外の大学、ビジネススクール、企業などへ派遣し、幅広い視野で最先端の理論・スキルを習得します。

### ■ 階層別 社内研修・トレーニー一覧

対象階層	若手層	中堅層	次期マネジメント層	マネジメント層
社内研修制度	新入社員導入研修			
	2年目営業社員スキルアップ研修			
	3年目営業社員スキルアップ研修			
	1年目社員基礎研修	MEB研修		
スキル型	1年目社員スキルアップ研修	ユーマシン研修		
	1年目社員スキルアップ研修	グローバルビジネススクール(GBS)		
	1年目社員フォローアップ研修	MULビジネススクール(MBS)		
	1年目社員フォローアップ研修	リスク&ファイナンス基礎講座		
マインド型	新入社員ビジネスマインド研修	メンター育成研修		
	2年目社員マインドアップ研修	若手キャリア研修	チームリーダー研修	OJT研修
			若手人材育成プログラム	新任次課長研修(人材マネジメント研修)
			女性リーダー養成塾	新任部長研修
外部派遣				キャリア開発育成プログラム
				キャリアデザインワークショップ

# 社員の意欲に応える キャリア形成のサポート。



# 多様な価値観が活かされる 企業風土。

## ▶ キャリアアップ

三菱UFJリースでは、キャリアを自らの手で拓きたいという社員の意欲を尊重し、それに適する制度を整備しています。社員のモチベーションの向上を促すことで、組織としての成長も目指していきます。

### ■ 社内公募制度

社員の意欲を尊重するため、応募した社員が、選考ステップを経ることで希望する部署に異動することができる社内公募制度を採用しています。異動の可否は選考を経て決定されます。高いモチベーションを持つ意欲的な社員が、自らキャリアを切り拓くことを可能にする制度で、自由闊達な企業風土の醸成にも寄与しています。2009年は対象となる部店を拡大しました。

#### 対象部店

- 不動産ファイナンス部
- 不動産プロジェクト部
- ストラクチャードファイナンス部
- 船舶営業部
- 環境事業部
- 医療福祉部
- 海外日系営業部
- 産業機械部
- オペレーティングリース営業部
- 機械営業部
- サービス事業部
- 市場開発部
- e-ビジネス推進部
- 情報システム部
- 事務部
- (株)ユーマシ

#### VOICE 社内公募制度 利用者の声



医療福祉部  
チームリーダー  
辻 愛子

エリア営業部に7年間在籍し、幅広い商品知識を習得してきましたが、今後の成長・スキルアップのため、また専門知識・経験を身につけるため、社内公募制度に応募しました。医療福祉部に応募したのは、業務内容や医療業界に以前から関心があり、また戦略事業分野であることから、ダイナミックなビジネスができると考えたからです。希望が叶い異動してみて、医療業界は考えていた以上に幅広く深い知識や経験が必要だと感じています。日々勉強することは多いですが、刺激があり大変充実しています。

### ■ 社内ベンチャー制度

応募数 **11** プラン

社員から募集した新規事業プランを実現するチャンスのもと、社内ベンチャー制度を設けています。社員の潜在的なアイデアを引き出し、新規事業の創出を目指すとともに、チャレンジ精神あふれる企業風土の醸成にもつなげています。当制度の活用により、社員の創造力を活かすことで、お客さまの多様なニーズに応える商品・サービスを拡大していきます。

2009年度は募集に対して11プランの応募がありました。

### ■ コース転換制度

自らの能力や適性に合った仕事をしたいという社員の希望に応える仕組みとして、一定の水準を満たした場合にコース転換を認める制度を導入しています。コース転換の募集は毎年1回行われ、今までに多くの社員がコース転換を行っています。

## ▶ グローバル人材育成制度

語学力やファイナンス能力を活かしグローバルに活躍できる人材を育成するため、グローバルビジネススクール、海外トレーニー、語学スクール(英語、中国語)への派遣などを行っています。

#### VOICE グローバルビジネススクール 参加者の声



第一営業部  
小林 洋平

研修で学んだことの中には、日常の営業活動の中で実践しているものもありましたが、改めて研修という場において深く考え、見詰め直すことで、今まで意識していなかった多くのことに気づき、学ぶことができました。また、研修の教材は英文の教科書で、初めのうちは苦戦しましたが、何事も本気で取り組めば身につくことを実感しました。研修で学んだ知識や英語を今後ビジネスで活かしていきたいと思っています。

## ▶ 海外で活躍する現地社員

三菱UFJリースの海外拠点においては、多くの現地社員が活躍しています。グローバルネットワークが拡大していく中で、現地社員の活躍の場も増えています。

### ■ 三菱UFJリースの海外拠点



#### VOICE 現地社員の声



Mitsubishi UFJ Lease & Finance (U.S.A.), Inc.  
マネージャー  
秋田 さよ子

私は、三菱UFJリース(USA)がケンタッキー州に開設された当時から勤めています。いつも楽しい雰囲気です。担当する業務は、経理、財務、総務と幅広く責任もありますが、やりがいを実感しながらワークライフを送っています。三菱UFJリースグループの一員として、今後もアメリカでのビジネスの発展に貢献していきたいですね。

#### VOICE 現地社員の声



Mitsubishi UFJ Lease & Finance (U.S.A.), Inc.  
トロイ ボイル

4年前に三菱UFJリース(USA)に入社しました。前職は軍で法務関係の仕事をしていましたので、金融業界、さらには日系企業での勤務はすべてが新鮮でした。初めのうちは戸惑いましたが、周りのサポートのおかげで、今ではとても充実して仕事できています。仕事は主に法務全般と企業リサーチなどを担当しています。今、さらなるキャリアアップを目指し、Ph.D.in Law(法学博士)になるべく勉強中です。会社の成長とともに、自分自身も成長していければと思っています。

## ▶ 行動指針表彰制度 「クレドマイスター」の設置

2009年度より、行動指針を体現した事例・取り組みを表彰する「クレドマイスター」を新設しました。

クレド(Credo)はラテン語で「信条」や「理念」を意味し、マイスター(Meister)はドイツ語で「名人」「職人」を意味しています。「クレドマイスター」とは、行動指針を模範的・規範的に体現した取り組みを表彰する制度です。受賞者はマイスターとして全社的に賞賛するとともに、優れた取り組みを広く紹介することで社員の意識向上を図ります。また、マイスターを通じて全社的にクレドを伝承していくことも目指しています。

「クレドマイスター」の募集には、営業部門、コーポレート部門を問わず、多くの取り組みが寄せられました。

## ▶ 社長と語る会

合計参加者 約 **150**名

三菱UFJリースでは、中期経営計画で掲げる「自由闊達な企業文化の構築」を目指し、社長と社員が忌憚なく話し合う「社長と語る会」を開催しています。



幅広い年代の社員が1回10名弱の少人数で集まり、軽食をとりながら、会社の将来のことや社員が普段考えていることなど、さまざまな話題をざっくばらんに語り合っています。



社長と語る会



特集

# 地域医療への貢献



医療福祉部長  
片山 浩輔

## 病・医院運営のさまざまなニーズにワンストップで総合サポート。

少子高齢化が進む中で、医療機関が地域社会において担う役割はますます大きくなっています。医療機関は、診療の高度化に伴い高額な医療機器の導入を必要とする一方で、医療費抑制政策の影響もあり、病院経営を取り巻く環境は、決して楽観できない状況にあります。

三菱UFJリースでは、医療関連事業を重点分野の一つと位置づけ、地域社会にとって不可欠な存在である医療機関の経営をサポートするため、医療機器のリースのほか、診療報酬ファクタリング、不動産の流動化など、幅広いサービスをご提供しています。また、グループ会社の日医リースがご提供する病医院の開業サポートや、エム・キャストが取り扱う中古医療機器の売買など、三菱UFJリースグループには医療機関の多様なニーズにお応えできるさまざまな機能があります。こうした機能を十分に活用し、医療機関の経営を総合的にサポートすることで、地域医療に貢献していきたいと考えています。

## 事例紹介 北部地区医師会附属病院 心臓血管センター(沖縄県名護市)

### 地元で長年待ち望まれてきた医療施設がリースを活用して実現。

長寿県として知られる沖縄県ですが、近年、男子の平均寿命は低下基調にあります。その理由の一つとして、循環器系疾患による死亡率の増加が挙げられます。

これまで名護市を含む県北部には、循環器系外科手術を行える施設がなかったため、循環器疾患の患者は那覇市を中心とする県南部に長時間かけて搬送する必要があり、同地区の循環器疾患患者の死亡率を高めている要因の一つとして問題視されていました。

そこで、名護市内に「北部地区医師会附属病院 心臓血管センター」(運営:社団法人北部地区医師会)の設立が決定、三菱UFJリースは、設備一式のリースを行い、施設の開業をサポートしました。

2010年4月、待望の施設がオープンし、地元では喜びと期待の声が多く聞かれました。



北部地区医師会附属病院 心臓血管センター-外観



手術室



集中治療室



病室

#### VOICE

お客様の声



北部地区医師会病院  
院長  
諸喜田 林 様

沖縄県北部地域には高齢者が多く、幅広い医療ニーズに対応していく必要があるため、本施設の完成は医療サービスを充実させていくうえで意義が大きいと思います。三菱UFJリースの協力・サポートには感謝しています。今後ますます多様化していく医療ニーズに対して、きめ細かい医療体制を整備し、良質なサービスを提供していきたいと考えています。

#### VOICE

お客様の声



北部地区医師会病院  
事務長  
山城 勝彦 様

本施設が完成し、感無量です。まさに、「地域社会への良質な医療サービスを提供する」という病院の経営理念に合うものです。公的資金も活用して計画を進めてきましたが、これまでに幾度となく頓挫しかけてきました。そのようなときに、三菱UFJリースのサポートが決まり、本当に助かりました。

## 三菱UFJリースの医療関連事業

■グループ3社が連携してトータルソリューションを提供します。

### 三菱UFJリース 総合ファイナンス

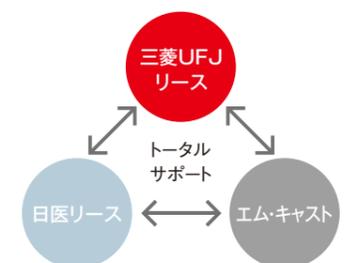
開業時に必要な資金の融資や医療機器のリース、診療報酬債権ファクタリング、病院の省エネ化などさまざまなサービスを提供します。

### 日医リース 病・医院開業サポート

専門の診療科ごとに、開業予定地・資金面のご相談から、医療機器・IT機器の導入支援、人員、広告宣伝などに至るまで、開業に関する準備や諸手続きをトータルでサポートしています。

### エム・キャスト 中古医療機器

中古医療機器の専門商社として、さまざまな医療機器を取り扱っています。「安全性」を重視した品質管理を行いつつ、医療機器の高度化、入れ替えなどのニーズにお応えしています。



# 教育・環境活動へのサポートを通じた豊かな社会づくり。



# 地域社会と共生していく幅広い支援活動を展開。

## 基本的な考え方

三菱UFJリースでは、地域や環境と共存共栄を図るためのさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。また地域社会の一員として、そして企業市民として、事業活動を通じた社会貢献活動にも力を入れています。こうした活動を通して豊かな社会の実現に貢献していきたいと考えています。

## 教育を通じた次世代育成支援

教育を通じた社会貢献として、2009年はインターンシップとジョブシャドウを実施しました。

### ■ インターンシップ

参加者 **150名**

就職活動を控える学生に就業体験の機会を提供するために、2009年8月から9月にかけてインターンシップを実施しました。

東京・大阪で計5回行い150名の学生が参加。「問題解決力」をテーマとして、グループワークで疑似就業体験を行いました。

企業リサーチや問題解決のための検討など、金融業界における営業の流れについて学んだ参加者からは、「グループワークを通して仕事へのイメージが深まった」「社会で必要とされる問題解決力についてよくわかった」などの感想が聞かれました。



インターンシップ

### ■ ジョブシャドウ

参加高校生 **約100名**

ジュニアアチーブメント日本、東京都教育委員会との共催で、2009年7月に都立高校生の職場体験として「ジョブシャドウ」を実施しました。三菱UFJフィナンシャル・グループ全体で約100名の学生を受け入れ、当社には9名の高校生が訪れました。

当プログラムは仕事をしている人を見ることに主眼を置いたもので、高校生が半日間、ペアとなった社員に影のようについて回り、働く姿勢や職場での臨場感を体験してもらいました。参加した高校生からは「仕事にはチームワークが重要であることがよくわかった」などの感想が寄せられました。



ジョブシャドウ

### VOICE

ジョブシャドウ参加者の声



法務コンプライアンス部 (当時：国際部)  
**清水 憲之**

日頃から緊張感を持って担当業務に当たっていましたが、今回高校生にじっくり自分の仕事を見られたことで、一つひとつの業務に細心の注意を払って仕事をする大切さを再認識しました。終わったあと、高校生から「仕事を行っていくうえで、個人プレーではなく、チームプレーが何よりも大切なんですね」、「会議資料の作成やスケジュール調整など、一つひとつ細かい作業にも手を抜かない姿が格好よかったです」との感想をもらい、一生懸命仕事をしていると、見ている人にも伝わるんだなと改めて思いました。

## 森林(林業)再生に向けて

三菱UFJリースは2009年より環境省主催の「森林再生ビジネス検討会」に参加しています。

「森林再生ビジネス検討会」とは、林業再生とそれによる環境対策や地域振興を目的として、産官学が連携して設置した組織です。ここでの検討結果を受け、2010年より岐阜県森林組合連合会と民間企業とが連携し、相互にサポートしつつ、森林経営の強化を推進していくこととなりました。

森林は、水源涵養や土砂災害を防ぎCO<sub>2</sub>を吸収するなどの環境保全機能を持つほか、木材資源の供給機能があります。しかし、現状は林業の衰退により多くの森林が管理不足のため荒廃し、環境保全機能を発揮できなくなり、土砂災害などの自然災害の原因にもなっています。また、林業の衰退はその地区の産業空洞化や人口減少も招いています。

これらの解決には、地域において林業が事業として継続していける仕組み、つまり林業がビジネスとして成立できるためのシステムをつくるのが必須ですが、それには民間企業の持つ経営的な視点を林業に導入し、生産管理・経営管理を行っていくことが必要です。三菱UFJリースは、リース&ファイナンスというビジネスで蓄積したノウハウを活かし、新しい森林経営をサポートしていきます。



林業の現場

## ボランティア活動

札幌支店では、2009年9月、NPO法人「森林遊びサポートセンター」が主催する植樹活動に参加しました。この活動は、北海道石狩支庁(現・石狩振興局)より「学校林を活用した森林環境教育促進事業」として助成を受け、子どもたちとともに札幌市立駒岡小学校裏の学校林に植樹を行いました。また、2009年10月には、札幌市が主催する「第10回北1条通オフィス町内会セーフティ&クリーン大作戦」に参加し、近隣のオフィスで働く人たちとともに、観光名所の時計台近辺の清掃を行いました。九州支店では、2009年5月に行われた地球にやさしい清掃活動「ラブアース・クリーンアップ2009」に、有志とその家族、グループ会社の有志が参加しました。



植樹活動への参加

## 三菱アジア子ども絵日記フェスタ

三菱UFJリースが加盟する三菱広報委員会では、社団法人日本ユネスコ協会連盟などと協働し、次世代を担うアジアの子どもたちがお互いの文化を理解、尊重し、共により良い未来を築くことを願って「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」を開催しています。第9期(2008～2009)は、日本を含むアジア24の国と地域の子どもたちから65,101作品が寄せられました。2009年9月に東京で開催された国内展示会には、多くの人が来場しました。



国内展示会の様子 (丸の内ビルディング)

## 第41回全日本大学駅伝への協賛

大学3大駅伝大会の一つで、大学駅伝日本一を決める「全日本大学駅伝」に協賛しました。当社は協賛に加え、大会設営や中継車両から排出されるCO<sub>2</sub>を当社のオフセットパートナーサービスを通じてカーボンオフセット<sup>※</sup>し、環境に配慮した大会運営をサポート。スポーツイベントとして初めてカーボンオフセット認証を取得しました。

※排出権関連ビジネスについて、詳しくは26ページをご覧ください。



全日本大学駅伝ポスター

## 光都東京 LIGHTOPIA 2009 への協賛

「LIGHTOPIA」は2006年より東京千代田区大手町・丸の内・有楽町地区で実施されているイルミネーションイベントで、三菱UFJリース

は毎年協賛をしています。2009年は「地球・環境・平和」をコンセプトに開催。光源をLEDに変更して消費電力を抑えるなど環境にも配慮されています。



LIGHTOPIA 2009

## PFI事業

PFI事業累計 **41件**

PFI(Private Finance Initiative)とは、公共施設などの建設から維持運営までを、民間の資金やノウハウを活用して行う手法です。民間のノウハウを活かすことで、より質の高いサービスと、事業コストの低減を実現します。三菱UFJリースは、早くから積極的にPFI事業に取り組んできました。これまでに累計で41件の実績があり、そのうち13件は代表企業として参加企業の取りまとめなどを行っています(2010年3月現在)。

### ■ 事例 愛知県産業労働センター(ウインクあいち)

2009年10月にオープンした、「産業の振興と労働支援のワンストップサービス」を基本コンセプトとした複合施設で、ホール、展示場、会議室のほか、カフェやレストランなどの商業施設が集結。名古屋駅前という立地の良さ、近隣と比べて安い施設使用料、さまざまな目的に利用できる利便性などから人気を集めています。当社が代表企業を務める企業グループが施設の設計・建設、維持管理、運営をPFI事業として約33年間にわたり行います。



施設外観

### VOICE

関係者の声



愛知県産業労働センター館長 **鷺見 和彦** 様

毎日1万名以上、多い時には1万5千名以上の来館者のある当施設は、大ホール、展示室、49室の会議室があり、多目的に使用できるのが特徴です。大きな会議イベントにも対応できる施設としてお客さまから好評をいただいています。PFIだからこそできる、民間ならではの細かいサービスを提供し、お客さまに気持ちよく使っていただける施設を目指しています。そのため、お客さまの声を聞きながら常に改善を進めていきたいと考えています。このような大きな施設を運営するのは大変な面もありますが、非常にやりがいを感じています。



特集

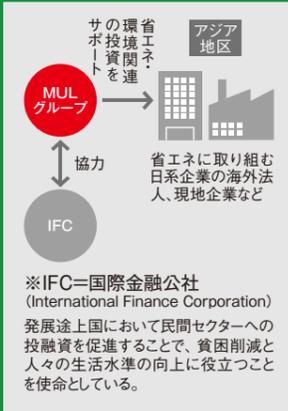
# 環境ビジネスの拡大



環境事業部長  
竹内 和彦

## 多様化する環境ニーズに積極的にお応えします。

お客様の省エネや環境負荷低減に向けた活動やニーズは多様化しています。三菱UFJリースでは、そうしたニーズにお応えするために、ESCO事業や環境ファイナンス、排出権関連ビジネスなどの環境に関連するさまざまな商品やサービスを展開しています。企業における環境活動の高まりを受け、こうしたサービスは年々拡大しています。近年では、日本国内のみならず海外においても環境負荷低減に取り組みたいというお客様が増えてきたことを受け、「環境グローバルサポートセンター」を設置し、環境関連サービスをグローバルに展開しています。また、2009年7月には世界銀行グループの国際金融公社（IFC）との間で、アジア地域の発展途上国における省エネ・環境関連ファイナンス事業の協働促進に関する覚書を締結。温暖化対策やエネルギーの効率化のニーズが高い東南アジアの発展途上国において、双方の知見やノウハウを活かして、企業と環境・省エネ関連投資のサポートを推進しています。



## ESCO 事業

ESCO (Energy Service Company) 事業とは、省エネ化を図るためにビルや工場、ホテル、病院などの施設を改修し、環境負荷とコストの削減を同時に実現するサービスです。お客様の施設に応じ、必要な技術、設備、ファイナンス機能、効果保証などのすべてをパッケージで提供します。当社は、日本においてESCO事業が導入された草創期から、積極的に取り組み、累計取扱件数は363件（2010年3月末現在）に及び、すべてのESCO事業者の中でもトップクラスの実績となっています。

### ■ 事業フロー

- 1 簡易診断
- 2 詳細エネルギー診断
- 3 実施計画書の立案
- 4 ESCOサービス契約
- 5 改修工事
- 6 削減量の検証
- 7 運転管理・メンテナンス

### ■ ESCO事業の実績推移



### ■ 事例紹介 名古屋大学附属病院

2010年より名古屋大学附属病院においてESCOの提供を開始しました。本施設では冷却排熱回収システム、高効率熱源設備などを導入し、2007年度比で省エネルギー率20.6%、CO<sub>2</sub>削減量約7,000トン（削減率21.0%）を目標としています。

名古屋大学は環境先進大学を目指し、従前より積極的に地球環境保全や省エネの対策を行っています。この附属病院のほか、附属図書館や動物実験施設においてもESCOを導入しており、三菱UFJリースはそのサポートを行っています。



名古屋大学附属病院がある鶴舞キャンパス

### VOICE

お客様の声



名古屋大学 参事  
山口 博行 様

地球環境保全に向け、ライフサイクル CO<sub>2</sub> の削減は大学の社会的責務です。また、国立大学が法人化され、大学でもコスト削減が求められています。附属病院は使用エネルギー量、CO<sub>2</sub> 排出量ともに大きな量となりますので、その省エネには民間の最新技術を導入できるESCOが最適な方法だと考えました。ESCO 事業の最大のメリットは、導入時における資金負担が少なく、国の補助金を活用して、最新の設備や技術によって省エネ改修やコスト削減が素早く達成できることです。また、医師や看護師のほか、さまざまなスタッフが省エネや経営参加への意識を持つことができるのも大きなメリットの一つです。

## 排出権関連ビジネス

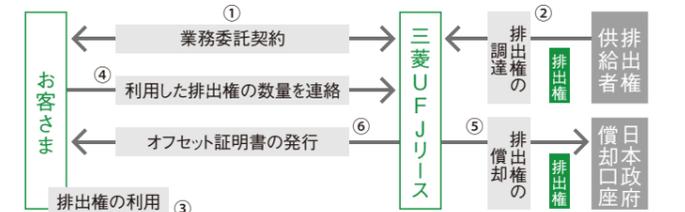
「排出権を持たずに利用する」という新しい形の排出権サービスが「オフセットパートナーサービス」です。排出権の調達、管理、償却などは三菱UFJリースがお客様に代わって行い、お客様は排出権を保有することなく、必要な量だけ手軽にご利用いただけます。これまでに商品製造工程やさまざまなイベントで排出されるCO<sub>2</sub>のオフセットに利用されています。

また、「カーボンナチュレルリース」は、リース物件が排出するCO<sub>2</sub>の全部または一部に対し排出権を使ってオフセットするサービスです。



三菱UFJリースのカーボンオフセットのロゴマークです。このCSRレポートの印刷工程（原材料の調達～印刷工程）において発生するCO<sub>2</sub>もカーボンオフセットしています。

### ■ オフセットパートナーサービスのスキーム



- ① お客様は当社と「業務委託契約」を締結します。
- ② お客様に代わって、当社が排出権を調達・管理します。
- ③ お客様は排出権を利用します。
- ④ お客様は利用した排出権の数量を当社に連絡します。
- ⑤ 当社は排出権を政府口座へ償却する手続きを行います。
- ⑥ お客様に当社より政府口座への償却を証明する「オフセット証明書」を発行します。

## 環境ファイナンス

環境に関するビジネス事業者（リサイクル、廃棄物処理、新エネルギー事業など）に対してファイナンスを実施し、事業計画の実現をサポートするサービスです。

### ■ 融資実行までの流れ

※標準的な案件の場合（数社での協調融資取り組みの場合）



## グリーンリース

風力発電やバイオマス発電など環境負荷の低いグリーン電力を使って、リース物件が消費する電力の一部をまかないます。環境対応に優れた機械・設備の導入促進と、自然エネルギーの発展への貢献を目指したサービスです。

### ■ グリーンリースの仕組み



# 環境負荷の低減に取り組み 循環型社会の実現に貢献。



# すべての社員が一体となり 環境管理体制を構築。

## 基本的な考え方

三菱UFJリースでは、モノを扱う事業を展開しているという特徴を活かし、環境負荷低減の取り組みに早くから力を入れてきました。事業活動では、環境関連ビジネスを重点分野と位置づけ、ESCO事業、環境ファイナンス、グリーンリース、排出権関連ビジネスなどのソリューションを提供しているほか、グループ会社においても環境に配慮したさまざまな商品・サービスを展開しています。また、環境マネジメントシステムの充実にも努め、グループ会社を含めてISO14001認証を取得しています。日常業務においても、エコオフィスやエコドライブの推進、ボランティア活動への参加など、持続可能な社会を実現するため、社内外を問わず環境負荷低減に取り組んでいます。

### 環境方針

- リース事業を通じて経済的目標を達成するとともに、全ての事業活動において環境保全を推進する。
- 環境目的・目標の設定・見直し及びマネジメントレビュー等を通じてシステムの継続的改善を図る。
- 以下の通り汚染の予防に努める。
  - (1) 省資源、省エネルギー、廃棄物の低減等に取り組み、効率の向上、コストの削減を図る。
  - (2) リース終了物件処理等においては、廃棄物の減量化と資源リサイクル及びリユースを推進する。
- 関係する法規制及びその他の要求事項を遵守する。

## ISO14001 認証

三菱UFJリースでは、環境マネジメントシステムの構築に早くから取り組み、2001年に国際規格であるISO14001認証を取得。2009年11月には「第3回更新審査兼変更審査」を受審し、承認されました。



## 環境法令違反・事故

環境事故  
法令違反  
0件

2009年度における環境法令違反・環境事故はありませんでした。今後とも法令を厳格に遵守し、環境意識の向上に継続的に取り組んでいきます。

## 環境教育

環境活動の実践には社員一人ひとりの環境意識の向上が不可欠であると考え、環境教育に力を入れています。環境方針を記した「環境方針カード」を全社員が常に携帯。3ヶ月ごとに設けた「グリーンの日」には環境活動への取り組み事例などを紹介した「環境かわら版」をグループ会社も含めた全社員に配布し、グループ全体で環境意識の啓発に努めています。また、「e-ラーニング」を通じた環境教育プログラムも取り入れています。環境に与える影響が特に著しい業務（リース終了物件処理業務、建設リサイクル法・土壌汚染対策法の対象物件処理業務など）の担当者に対しては、さらに特別の教育・訓練を実施したうえでスキルチェックシートによる認定を義務づけています。



環境かわら版

## 環境会計

2009年度の環境会計は、以下の通りです。(単位:百万円)

分類	環境保全コスト	
	主な取り組み内容	2009年度
事業エリア内コスト	公害防止(エコカーリース料)	166
上・下流コスト	引揚機の処分費用	253
管理活動コスト	ISO事務局コスト、環境マネジメントシステム維持運営コスト、CSRレポート作成コスト、環境教育コスト 他	5
社会活動コスト	寄付金など	4

環境保全に伴う経済効果	
主な取り組み内容	2009年度
中古部品売却益(MULエコビジネス)	22

## 環境法令一覧表(一部掲載)

環境影響	適用される法	管理点
1 廃棄物	廃棄物処理法(第12条3項)	産業廃棄物の運搬・処分を他人に委託する場合は、定められた資格を有する業者であること。
2 廃棄物	廃棄物処理法(第13条の3、第19条の5)	マニフェスト管理(報告・保管などの義務あり)。
3 廃棄物	廃棄物処理法(第16条)	廃棄物不法投棄の禁止。
4 建物工事発注、廃棄	建設リサイクル法	一定規模以上の建築工事(新築・増築、解体など)は、(1)知事への届出。(2)分別解体・再資源化に関する費用負担。(3)リサイクル建材の使用などによる再資源化の促進。
5 廃棄物	家電リサイクル法	特定家庭用機器は、(1)長期間使用し廃棄物の排出を抑制。(2)廃棄する場合は家電リサイクル法により適切に処理。
6 廃棄物	フロン回収破壊法	業務用エアコン・業務用冷凍冷蔵庫・自動車用エアコンなどのフロン内蔵物件は、(1)適正・確実な回収・破壊措置。(2)フロン類の排出抑制(一部、廃棄やリサイクル目的での譲渡に回収依頼書などが必要)。
7 土壌	土壌汚染対策法	土地の所有・投資は、土壌汚染対策法の調査、または指定区域になるおそれのある土地でないことを確認。
8 廃棄物	自動車リサイクル法	使用済自動車のリサイクル・処理は、適正業者によって適正・適法に行われているかを確認。
9 廃棄物	PCB廃棄物特措法	PCB廃棄物は適正処理し、譲渡・譲受は禁止。保管の届出、処分期限、合併・分割の届出などの適正管理。
10 大気	自動車NOx・PM法	事業活動に伴うNOx・PMの排出抑制計画やその実施状況を知事に報告。

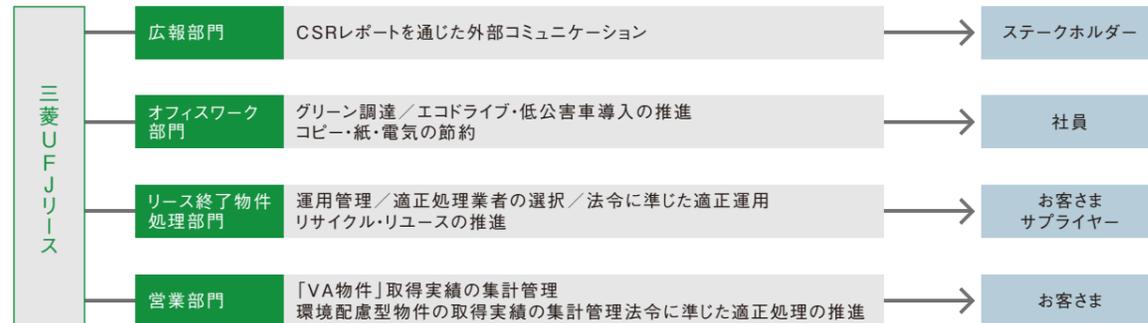
## エコキャップ収集活動

ペットボトルのキャップを回収した収益で世界の子どもたちにワクチンを贈るエコキャップ収集活動が全国各地で広がっています。三菱UFJリースでは、部店単位で自発的にペットボトルキャップの収集活動を行っており、参加者は年々増えています。焼却すればCO<sub>2</sub>を排出するペットボトルキャップですが、これを回収してリサイクルを促進し資源化することで、ポリオワクチンの購入につながり、世界の子どもたちの健康を守る一助となります。



横浜支店ではエコキャップ9.5kgを収集しました

## 環境活動フロー



## 環境目的・目標

環境目的	部門	2010年度目標	中長期目標
CSRレポートによる外部コミュニケーション	広報	幅広く情報を収集し、見やすいCSRレポートを作成。	CSRレポートの随時レベルアップを図り、環境保全への取り組みなど、CSRの活動状況を具体的にわかりやすく伝える。
省資源・省エネルギー	オフィスワーク	(1) エネルギー使用量の集計・管理。 (2) ハイブリッド車・ダウンサイジング車への入れ替え、エコドライブの推進。 (3) グリーン調達比率、コピー・紙・電気の使用量の集計・管理。	(1) 改正省エネ法・東京都環境確保条例に基づきエネルギー使用量削減を推進。 (2) エコドライブ、低公害車導入の推進。 (3) グリーン調達の推進、コピー・紙・電気の節約。
	営業	営業用(賃貸用)不動産のエネルギー使用量の集計・管理。	改正省エネ法に基づきエネルギー使用量削減を推進。
適法	リース終了物件処理	チェックリストを用いた日常的な運用管理。 (1) 車両の使用。(2) 倉庫照明の電力節約など。	日常的な運用管理の徹底と、運用実績などに応じた改善・見直し。
		(1) チェックリスト・手順書などに基づく適正処理業者の選択。 (2) 改正廃掃法、家電リサイクル法、フロン回収破壊法など、各種法令に準じた適正運用(リース終了物件の不法投棄の防止)。 (3) リース終了物件のリユースの推進。	(1) 厳格なマニフェスト管理。 (2) 厳格な処理業者選定及び優良な処理業者とのチェック&バランス体制確立。 (3) 家電リサイクル法、フロン回収破壊法など、各種法令に準じ、3Rの推進、環境汚染の防止。 (4) 記録管理・処理内容把握によるリユース推進。
廃棄物の低減(リユースの推進)	営業	売却・手解体による資源リサイクル・リユースの推進。	売却率・廃棄量の実績をもとに、効果的な手解体によるリサイクル・リユース体制を検討・推進。
		(1) VA物件・ESCO事業・環境関連ファイナンスに関する機器・設備(環境配慮型物件)の取得実績の集計・管理。 (2) リース・割賦物件に占めるVA物件の実績・取得割合を開示し、積極的な取り組みを推進。	(1) 環境ビジネスを通じて環境負荷低減に貢献。 (2) 再販価値の高い物件、再リース実行確度の高い物件を選定する力の育成と手法の確立により、2次収益の確保、廃棄物の排出量削減を推進。



# オフィスや事業活動の中で 常に環境保全の意識を。

# グループ全体で 幅広い環境活動を展開。

## ▶▶ 生物多様性に係るガイドライン

三菱UFJリースでは、リース物件の3Rや中古機器売買ビジネスなどを通じて、資源の有効活用や廃棄量低減に取り組み、循環型社会実現への貢献を目指しています。そうした活動をより強く推進するために、2010年4月「生物多様性に係るガイドライン」を制定し、「事業活動を通じた取り組み」「オフィスワークの中での取り組み」を柱に、さまざまな活動目標を掲げています。

たとえば、森林生態系保全のために、FSC認証紙の使用を推進。CSRレポートに加え、アニュアルレポート、社内報などにも使用を拡大しています。そのほか、コピー・紙・電気の使用量削減や、グリーン調達、エコドライブなどの積極的な推進によって、生物多様性の保全と持続可能な社会実現に向けた継続的な取り組みを展開していきます。

### ■ FSC認証マーク

森林保全に配慮し、適切に管理された森林の木からつくられた製品につけられるマークです。



## TOPICS 地球環境まもり隊

市場開発部は、eco検定(東京商工会議所主催)の合格者(エココピー)が主体となってエコユニット「地球環境まもり隊」として登録しました。メンバーは市場開発部(東名阪)の社員約90名。会社として実施しているエコ活動に加えて、身近なところからできるエコ活動をみんなで無理なく実践できる環境づくりを目指しています。

これまでにエコキャップの回収、使用済み携帯電話の回収、七夕ライトダウンへの参加などの活動を実施。今後も清掃活動などさまざまな企画を予定しています。



エコユニット「地球環境まもり隊」

## ▶▶ リースビジネスを通じた3R

三菱UFJリースでは、リースビジネスを通じて循環型社会の実現に貢献するため、リース終了物件のリデュース(廃棄物の低減)、リユース(中古市場で活用)、リサイクル(再資源化)の3Rを推進しています。

リデュース	再リースや転売により製品使用期間を延ばして廃棄物を削減
リユース	再リース、中古品として販売
リサイクル	原材料として再利用

## ▶▶ VA物件取得活動の推進

三菱UFJリースでは廃棄物の削減を目指して、リース終了後に転売や再リースなどが見込めるVA(=Value Asset)物件の取得を積極的に推進しています。

VA物件とは、時間の経過による資産価値の劣化が遅く、一般に長期にわたって使用できる物件です。リース終了物件を可能な限り廃棄せず再び利用することができ、廃棄物削減とともに循環型社会にも貢献します。

## ▶▶ 廃棄物処理委託業者選定

再利用(リユース)やリサイクルした後に残る廃棄物は、当社規定をもとに厳格に選定した廃棄物処理業者に委託し、法令に従った適切な方法で廃棄しています。

選定に当たっては、財務状況、保有設備、再資源化率などのほか、処理現場を視察して設備稼働状況や管理状況、経営者の姿勢について十分に調査を行っています。

また、委託した後も定期的に現地を視察し、適正に運営されているか継続的にチェックしています。



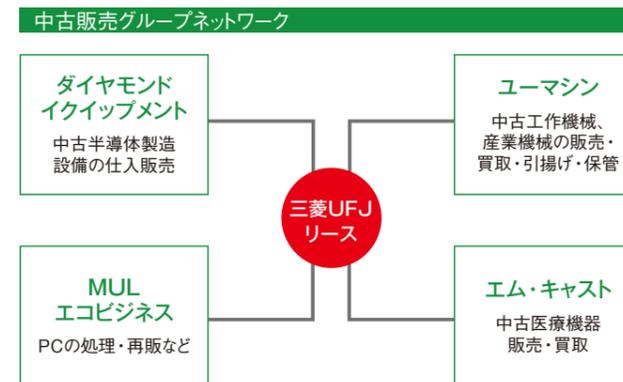
廃棄物処理現場の視察

三菱UFJリースは、グループ全体で環境に関する取り組みを推進しています。

### ■ 中古機器売買ビジネス

三菱UFJリースでは、お客さまの設備導入に携わるという事業の特性上、新規設備の導入・入替などに伴い発生する廃棄物の削減を社会的責任と認識し、グループ会社と一体となって中古機器売買ビジネスを積極的に展開しています。リースビジネスで培ったモノの価値を見極める目とノウハウを活用し、PCやOA機器、工作機械、半導体製造設備、医療機器などの中古機器を売買することで、再活用・長期使用を促進しています。

これらの取り組みは、環境への負荷低減のみならず、設備を導入するお客さまのコスト削減にも貢献しています。



### ■ ダイヤモンドレンタルシステム

PC・IT機器のリース・レンタルなどを行うダイヤモンドレンタルシステム(DRS)では、2009年10月よりカーボンオフセット付きパソコンレンタル「GREEN SELECT」の提供を始めました。規定の省エネ基準をクリアしたPCをレンタルする際に、そのPCが排出するCO<sub>2</sub>をオフセットする権利を付属して提供します。排出権の調達や償却手続は三菱UFJリースのオフセットサービス室が行います。グループの総合力を活かして、お客さまの環境貢献ニーズにお応えしています。



### ■ MULエコビジネス

三菱UFJリースグループにおいてリースが終了したPCやOA機器を回収し、徹底したリユース・リサイクルを実施。ゼロエミッションに向けて努力しています。2009年度は、回収した251,000台のうち再販売台数は183,000台、リユース率は73%でした。回収したPCは、自社一貫体制でデータ消去などの情報漏洩防止対策を厳格に行い、グループのリース物件の「出口の信用」を支えています。



MULエコビジネス株式会社

### ■ 三菱オートリース

三菱オートリースでは、2010年2月に東京・天王洲にて、最新の電気自動車やハイブリッド車、燃料電池自動車などを集めた試乗・展示会を開催しました。環境や電気自動車に関する有識者の講演、エコドライブ教習(体験)、テレマティクス※の展示など、さまざまな催しやソリューションの提案が行われました。イベントには、約80社、200名を超えるお客さまにご来場いただきました。



講演会



展示会

※車載器(映像記録型ドライブレコーダー)を利用した次世代情報提供サービス。

### ■ MMCダイヤモンドファイナンス

オートクレジット、オートリース、レンタカー事業などを行うMMCダイヤモンドファイナンスでは、2010年3月より営業車として三菱自動車が製造・販売する電気自動車「i-MiEV」を導入しました。最新鋭の環境対応車として注目を集める「i-MiEV」に社員が実際に乗ることで、その性能を実感し、お客さまに電気自動車のよさを伝えています。環境対応車両の普及促進をはじめとして、環境に配慮した営業活動を進めることで、環境社会の実現に貢献しています。



電気自動車「i-MiEV」